

# 在宅高齢者の検診受診行動と関連する要因

## 社会的背景の異なる三地域の比較

ミツハン ユウ キシ レイコ エグチ テルコ  
 三觜 雄<sup>\*,3\*</sup> 岸 玲子<sup>2\*</sup> 江口 照子<sup>3\*</sup>  
 ミヤケ ヒロツグ マエダ ノブオ  
 三宅 浩次<sup>3\*</sup> 前田 信雄<sup>4\*</sup>

**目的** 在宅高齢者の検診受診行動と基本的要因の関連性について、社会的背景の異なる三地域で男女差および地域差の有・無について検討する。

**方法** 北海道内の都市部・札幌市（70歳）、旧産炭過疎地域・夕張市（69歳・70歳）、都市近郊農村・鷹栖町（69歳以上75歳未満）の三地域で調査・集計を行った。

調査項目は、基本的属性〔学歴、家族類型、配偶者の状況、仕事の有・無、過去の最長職、月収、家の所有状況〕、ライフスタイル〔喫煙歴、喫煙本数、飲酒歴、身体的活動習慣、食生活への配慮〕、主観的健康状態・医療受療状況〔健康度自己評価、最近1年間の入院および臥床、最近3か月間の外来受診、かかりつけ医の有・無、慢性疾患の既往歴、現在受療中の疾患、健康に対する不安感〕、聴力、視力、失禁・身体的不自由・痴呆症状の有・無、身体的・手段的ADLなどで、自記式で回答を得た。 $\chi^2$ 検定とMantel-Haenszelの検定を用い、地域で層別化し男女別に、検診の「受診群」と「非受診群」を比較した。

**結果** 男性では「受診群」は「非受診群」と比較して、高学歴・喫煙者の割合が有意に低く、身体的活動習慣を有する者・食生活への配慮をしている者・健康度自己評価で健康・普通ととらえている者、聴力・視力に支障が無い者、身体的・手段的ADLが良好な者の割合が有意に高かった。

女性では「受診群」は「非受診群」と比較して、「最近3か月間に外来受診有り」の者・「健康に対する不安感を有する」者の割合が有意に高く、受診行動の関連要因に男女差を認めた。

地域別にみた結果、札幌市の男性では「受診群」の方に「身体的に不自由な部分が無い」者の比率が高かったが、夕張市と鷹栖町では逆に「非受診群」の方が「身体的に不自由な部分が無い」者の比率が高く、地域差が認められた。札幌市の女性では「この3か月間に外来受診無し」と「この3か月間に外来受診有り」者の比率は「受診群」・「非受診群」でほぼ等しかったが、夕張市・鷹栖町では「非受診群」で「この3か月間に外来受診無し」者の比率が高く地域差が認められた。

**結論** 高齢者に検診受診を勧奨するに際しては、基本的属性の違いだけでなくライフスタイル・主観的健康状態・医療受療状況・ADLの状況などを配慮に加えることが望まれ、さらには地域特性を考慮する必要もある。

**Key words** : 高齢者, 検診, 受診, 都市部, 過疎地

\* 札幌市保健所

<sup>2\*</sup> 北海道大学大学院医学研究科予防医学講座公衆衛生学分野

<sup>3\*</sup> 札幌医科大学医学部公衆衛生学教室

<sup>4\*</sup> 鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科

連絡先：〒060-0042 札幌市中央区大通西19丁目  
 札幌市保健所 三觜 雄